

熱性けいれん(職員研修)

熱性けいれんとは：生後6ヶ月～5歳ごろの乳幼児にみられる。急な発熱により誘発される。脳の発達が未熟なために熱が刺激になって起こると言われている。一部遺伝的な素質により起こる。中でも1～3歳くらいの子どもの多く7～8%の子どもにみられ、そのうちの30%程度は何度も繰り返すと言われているが、成長するにつき発症することが少なくなる。

熱性けいれんの症状：顔色が悪くなる。意識がなくなる。眼球が上に行ったり、左右どちらかに寄ったり、手足が左右対称にピクピクと周期的にリズムを打ったようなけいれん（間代性けいれん）をしたり、全身に力が入った状態で突っ張るけいれん（強直性けいれん）や最初に強直性けいれんがきて間代性けいれんがくるものもある。
ぼーっとして意識がなくなるだけのけいれんもある。
けいれん後はそのまま寝てしまうことが多い。

熱性けいれんの種類

1. 単純型：左右差のない全身のけいれん。5分以内で治まる。
2. 複雑型：15分以上続く
24時間以内に再発する
左右差がある
体の一部だけけいれんする
手足にけいれんはないが意識がない

当園園児の既往歴

クラス	氏名	発症年齢、回数、症状（持続時間、薬の有無など）、 病院名

けいれんの手当

- ① すぐに時間を計り始める。周囲に協力を求める。
ただちに、けいれんが起きている時間を計り始め「けいれんです」と他の職員を呼び、協力を求める。
他の園児を不安がらせないように他の部屋に誘導する。
- ② 衣類を緩め、体を横に寝かせる（右を下にする）
- ③ けいれんしてる様子を観察する。（顔色、目の動き、けいれんのしかたなど）
けいれんを起こしているときは刺激を与えない（ゆすったり、大声で呼ぶなど）
- ④ けいれんが治ったら体温を測り、意識を確認する。
名前を呼び、意識を確認、手足に麻痺がないか確かめる。
・ガクガクが治っても「手足に力が入っている」「目が開いたまま反応がない」場合はまだ治まっていないと考える。

⇒同時に

※けいれんをおこした場合は早急に保護者に連絡し、救急車要請をする。
けいれん既往がある園児の場合は救急隊に病院名も伝える。
※余裕があれば動画を撮る。

けいれん時の観察チェックポイント

園児氏名 _____

① けいれんを起こした日時 _____

② けいれんの状況

けいれんが起きる直前の状況	☐ 遊んでいた ☐ 食事中 ☐ 午睡中 ☐ 外傷後（転倒、転落、衝突など） ☐ その他
顔色、唇の色	☐ 青紫色 ☐ 青白い ☐ 赤い ☐ いつも通り
目の様子	☐ 一点をみつめている ☐ 白目をむいている ☐ 右に寄っている ☐ 左に寄っている ☐ その他
意識	☐ ある ☐ なし ☐ 不明
手足の様子	☐ だらんとしている（左右とも、右のみ、左のみ） ☐ 力を入れて突っ張っている（左右とも、右のみ、左のみ） ☐ ガクガクしている（左右同じ動き、左右バラバラ、右のみガクガク、左のみガクガク） ☐ その他

③ けいれんが治まった時間 _____

④ 熱 _____℃

⑤ けいれんが治まってからの児の様子

- ・顔色 （不良、いつも通り）
- ・呼吸 （苦しそう、良）
- ・機嫌 （悪い、ぼーっとしている、良、寝てしまった）
 - ・受け答えはできるか （できない、できる、不明）
- ・手足の麻痺はないか （ある（部位： ）、ない、不明）
- ・その他

★けいれん時は横向き（右下）にし嘔吐や泡を誤飲しないようにします。

★保護者に連絡や救急車要請をしてください。

★できれば動画を撮ってください。診察に役立ちます。